

みんなで考えよう！

次の1～3の中で、「SDGs」について正しいものはどれでしょう。

- 1 「持続可能な開発目標」のことで、誰一人として取り残さないことを誓ったもの。
- 2 「SDGs」には8つのゴールと、21のターゲットがある。
- 3 主に途上国の目標で、2001年に策定されたものである。

※ヒント…2ページの記事をご覧ください。

水曜日はLGBT相談の日 ～人権相談ダイヤルを開設しています～

堺市では、「人権相談ダイヤル」(専用回線)を開設し、さまざまな人権に関する相談を受け付けています。

このダイヤルでは、毎週水曜日、LGBTなどの性的マイノリティ(少数者)のご本人に加え、家族や友人など周りの方からの相談も受け付けます。相談は無料です。

人権相談ダイヤル 072-228-7364

相談時間 月～金曜日(祝休日、年末年始を除く)
午前9時から正午と午後1時から午後5時
(受付終了は午後4時30分 おおむね1回30分)
※ 毎週水曜日はLGBTなど多様な性に関する相談を受付。
※ 面接相談あり。上記ダイヤルで要予約。
※ 相談者の秘密は守ります。

LGBTとは

- (L) レズビアン
同性を好きになる女性
- (G) ゲイ
同性を好きになる男性
- (B) バイセクシュアル
異性を好きになることもあれば、同性を好きになることもある人
- (T) トランスジェンダー
出生時に決定された性(からだの性)と自分の性の認識(こころの性)が異なる人

※LGBT以外にも多様な性があります。

堺セーフシティ・プログラムについて

UN Women(ジェンダー平等と女性のエンパワーメントのための国連機関)が世界に呼びかけ、各都市で道路や公園などの「公的空間」における女性と女児に対する性暴力やセクシュアル・ハラスメントを防止・減少させる防犯モデルを構築し、最終的には、世界各都市にそのモデルの提供を行う取組を実施しています。

平成25年(2013年)12月、堺はこの取組に国内で初めて参加を表明し、「堺セーフシティ・プログラム」として女性や子どもをはじめ、全ての人にとって安全・安心なまちをめざす取組をすすめています。

答え:①

(②は17のゴール169のターゲットがあります。③はMDGs(ミレニアム開発目標)の説明です。)

2017年度

こころの響き

堺市人権協だより

Vol.39

わたしたちのまち堺から 人権文化の花を咲かせよう！



もくじ

- P1…堺市人権教育推進協議会って なに？
- P2…誰ひとり置き去りにしない社会に向けて
(人権を守る市民のつどいから)
- P3…複合差別から見る人権(全体研修会から)
- P4…人権とまちづくりのかたち
(校区推進委員研修から)
- P5～6…「わたしからの人権メッセージ」
特選作品紹介
- P7…人権クイズなど

堺市人権教育推進協議会(略称:人権協)では、ここに紹介する区民まつりやイベントを通じて、「人権草の根運動」を展開しています。2018年度も様々な活動に取り組みますので、みなさまも、ぜひご参加ください。

①							



編集・発行/堺市人権教育推進協議会
(2018年3月 発行)
堺市堺区南瓦町3番1号 堺市人権推進課内
TEL 072-228-7420 FAX 072-228-8070
URL <http://www.jinkenkyo.jp>

「複合差別から見る人権」

2017年 全体研修会 シンポジウム

2017年8月17日にサンスクエア堺で「複合差別から見る人権」というテーマで、シンポジウムを行いました。

複合差別とは？

「複合差別」とはいくつかの差別が結びついて起きる差別のことです。例えば女性であり、障がい者であることの生きづらさは、2つの差別の単純な足し算ではなく、掛け算のように複雑です。

複合差別は、個人のプライバシーに触れることが多いため表面化されにくく、実態を示す統計データはほとんどありません。

当事者も周囲も「障がいがあるから」、「女性だから」仕方がないと思われ、社会問題として認識されにくい傾向があります。

パネリスト：中田 理恵子さん(部落解放同盟大阪府連合会 堺支部長)
小田 多佳子さん(NPO法人障害者団体連合会 理事長)
李 節子さん(長崎県立大学シーボルト校大学院 教授)
コーディネーター：山口 典子さん(堺市女性団体協議会 委員長)



専門委員会について

2017年度から始まった専門委員会が動き出しました。3つの委員会では、様々な人権課題に対して、これまで以上に活発な取り組み・啓発を行ってまいります。

同和問題専門委員会

〔堺市立人権ふれあいセンター〕



船松人権歴史館の見学・フィールドワークを行い、堺の歴史と現状を学びました。

女性と子どもの人権専門委員会

〔堺市立女性センター〕

2018年4月1日より「堺市立男女共同参画センター」に改称します。



女性センターを見学し、堺市の女性の地位向上に向けた運動の歴史を学びました。

障がい者と高齢者の人権専門委員会

〔堺市立健康福祉プラザ〕



「付きあってみよう」を合言葉に、健康福祉プラザの視覚・聴覚障害者センターや、発達障害者支援センターに協力をいただき、障がいのある方との交流を行いました。

2017年度の校区推進委員研修会

毎年10月～11月に堺市内の各区で計7回、人権に関する研修会を実施しています。校区推進委員の皆様をはじめ、一般市民の方にも参加していただいています。

※校区推進委員とは…校区推進代表者(校区代表者)及び校区推進委員は、人権協を構成する一員です。校区推進委員は、校区自治連合会役員・単位自治会長・校区内各種団体委員や、各校区内で人権啓発に熱意のある方々の中から堺市自治連合協議会校区代表者によりご推薦いただいています。

2017年度の校区推進委員研修では、各区で以下のような内容で学びました。委員の皆様には、お忙しい中多数ご参加いただいたことに、感謝申し上げます。

	日程	テーマ	講師	概要
南区	10月19日(木)	女性の人権	正井禮子さん (NPO法人 女性と子ども支援センター ウィメンズネット-こうべ代表理事)	災害時における、女性の人権について、実際のお話などを例に、話していただきました。
東区	11月7日(火)			
西区	10月27日(金)	同和問題	池谷啓介さん (NPO法人 暮らしづくりネットワーク北芝事務局長)	箕面市北芝地区での、人権とまちづくりの取り組みを中心に、話していただきました。
美原区	10月30日(月)	高齢者の人権	山本秀樹さん (「認知症の人と家族の会」大阪府支部・医師)	医師としての視点で、認知症患者へのサポートなどについて話していただきました。
北区	11月6日(月)			
堺区	10月31日(火)	子どもの人権	伊藤嘉余子さん (大阪府立大学 地域保健学域福祉学類 教授)	子どもの虐待など、子どもの人権について、話していただきました。
中区	11月28日(火)			

次年度もたくさんのご参加、よろしくお願いします。

区民まつりで啓発パネル展示を行いました

堺市人権教育推進協議会では、各区民まつりにブースを出して、人権に関するパネル展示を行い、人権啓発につとめてまいりました。

今年度も、盛況のうちに終えることができました。ご協力いただいた自治会の皆さまに、お礼申し上げます。

訪れた方々が、熱心に展示パネルを見学され、中には、その場で質問される方もいらっしゃいました。

こういった機会を通して、少しでも人権について関心を持ってくださる型が増えるよう、今後も、様々な機会に、様々な方法で、皆さま方に人権啓発を行っていきます。

どうぞ、ふるってご参加ください。



堺市人権教育推進協議会

(略称:人権協)ってなに?

堺市人権教育推進協議会は部落差別をはじめ、一切の差別のない明るく住みよいまちづくりをめざして、1979年7月に発足した市民組織です。

さまざまな人権啓発活動を通じて、すべての人の人権が尊重される平和で豊かな社会をつくるための「人権草の根運動」を推進しています。

会長：金丸 尚弘

わたしたちの活動に、ぜひ参加してください。



加盟している団体と部会

堺市教育会
堺市更生保護女性会
堺市こども会育成協議会
堺市在日外国人教育研究会
堺市自治連合協議会
堺市社会教育委員会議
堺市女性団体協議会
堺市私立幼稚園連合会
特定非営利活動法人堺障害者団体連合会
堺市青少年指導員連絡協議会
堺市人権教育研究会
堺市農業協同組合
堺市PTA協議会
堺市保育会
一般財団法人堺市母子寡婦福祉会
特定非営利活動法人さかい民間教育保育施設連盟
堺市民生委員児童委員連合会
堺商工会議所
堺市立校園長会
一般社団法人堺市老人クラブ連合会
堺市人権擁護委員協議会堺市地区委員会
堺地区行政相談委員会
堺市保護司会連絡協議会
社会福祉法人堺市社会福祉協議会
一般社団法人大阪府専修学校各種学校連合会
自由同和会大阪府本部堺支部
第4学区8地区公立学校長会
株式会社URコミュニティ西日本支社
泉北住まいセンター
部落解放同盟大阪府連合会堺支部
堺市人権教育推進協議会企業部会
堺市人権教育推進協議会宗教部会
堺市人権教育推進協議会インターユース堺部会

堺市人権教育推進協議会の役員を紹介します

会長 / 金丸 尚弘 (堺市人権教育推進協議会企業部会)
副会長 / 久保 照 男 (堺市自治連合協議会)
副会長 / 山口 典 子 (堺市女性団体協議会)
副会長 / 橋本 明 (堺市PTA協議会)
副会長 / 白本 忠 史 (堺市保育会)
副会長 / 笠井 泰 (堺市立校園長会)
副会長 / 中田 理恵子 (部落解放同盟大阪府連合会堺支部)
副会長 / 吉村 誠 治 (人権協 宗教部会)
会 計 / 服部 節 子 (堺市更生保護女性会)
会 計 / 小倉 美津子 (堺市人権擁護委員協議会堺市地区委員会)



「誰ひとり置き去りにしない社会に向けて」

第39回 人権を守る市民のつどい (2017年12月2日実施)

講演:池上清子さん

(公益財団法人プラン・インターナショナル・ジャパン理事長/長崎大学大学院教授)

持続可能な開発目標のことで、2015年9月の国連サミットで採択された、2016年から2030年までの国際目標です。

地球上の誰一人として取り残さないことを誓った、持続可能な世界を実現するための17のゴール・169のターゲットから構成されています。



SDGs とは?
SUSTAINABLE
持続可能な
DEVELOPMENT
開発
GOALS
目標

むずかしい!と思ったあなたに...

わたしたちのSDGs ~身近な一歩は世界につながる~

- ・持続可能な社会の実現のために、「もったいない」という気持ちを地域で共有しよう。
- ・女性や子どもが活躍できる地域をめざそう。
- ・地域でのつながりを大事にしていこう。



知的
障がい者
のバンド

サルサガムテープのミニライブをしました

サルサガムテープは、知的障がい者のプロロックバンドで、日頃は神奈川県の厚木市を拠点に活動されています。ポリバケツにガムテープを貼った手作り太鼓で自由なリズムセッションを始めたことからそのバンド名がついたそうです。

バンドが奏でる演奏と、力強くもリズムカルなポリバケツの太鼓の音は、心地よく会場に響き渡り、障がいのある人も、ない人も、最後は会場が一体となって盛りあがりました。

*サルサとは...キューバ音楽にジャズ的な要素を加えた、リズム主体の新しいラテン音楽。



インターユース堺 (IYS) 活動報告をしました

インターユース堺では、今年度の台湾への青年派遣について、「新たな「気づき」への旅」と題して、3名の団員による報告を行いました。

今回のツアーで学んだ事を、団員自身が振り返りながら深めるとともに、今後は様々な場面で皆様に還元できるよう、活動していきたいと考えております。あわせて、私たちインターユース堺は、今後も人権感覚と国際感覚を身につけ、平和と人権を尊重し、社会に貢献できる若者の育成のために、一層の努力を続けてまいります。



*SDGsの17のゴールの中で関係が深いものを、ひとつあげました。他にもどんなゴールとつながっているか、考えてみてください。

わたしからの
人権メッセージ

—特選作品より—

わたしの社会さんか (小学校2年生)

わたしはかみの毛をすつと伸ばしています。だけど、先日こしまであつたかみを、かた上まで切りました。ヘアドネーションをするためです。

ヘアドネーションは、びょうきなどでかみの毛がなかったりする人のためにかつらをつくるのに、かみをきふすることです。三十センチメートル以上いるそうです。

はじめは、年長のときに、こしまでかみがあつたので、おかあさんにおともだちのためにかみをあげてみないかと、ヘアドネーションについてせつめいされました。びょうきでかみがなくなることがどんなにつらいことかと思うと、むねがいっぱいになりました。

長いかみが大きくなったので、切ったときは、なみだがあふれましたが、どこかのおともだちのために

なつてうれしかったです。

そして、かみを切ってくれたびょうしさんが、「ありがとう。えらかったね。」と言ってくれました。また、かみをのばしてヘアドネーションしようと思いました。

2年生の夏休み、やっとかみがこしまでのびたので、2回目のヘアドネーションができてうれしかったです。

ちいさなわたしには、だれかのためになにかできることはすくないです。でも、わたしにしかできないことを、わたしなりにしたいです。その一つがヘアドネーションです。

つぎは5年生くらいなので、すてきなおねえさんになつていきたいです。



桃がらふと考えたこと (中学校2年)

今年も淡いピンク色のみずみずしい桃が届いた。福島県に住んでいる祖母が送ってくれたのだ。祖母は、毎年、福島県産のいちごやさくらんぼ、りんごやぶどうなどの季節の果物を送ってくれる。それらは、新鮮で品質もよく、甘さも味も格別である。僕が生まれてからずっと送ってくれているので、もう十四年も続いている。しかし、届かなかった年が数年あった。それは、震災直後の福島原発の事故により放射線量が高くなったときである。

現在では、除染が進み、農作物の徹底した検査が行われ、福島県産の農作物の安全性は科学的に証明されている。しかし、少しずつ、輸出や購入者が増えてきているものの、残念ながら、福島県産のものは、購入しないという人も少なくない。また、依然、輸入禁止としている国もあり、風評被害は無くなっていないのが現実である。確かに、安全ではないかもしれない、と思う気持ちも分からないわけではないが、科学的に証明されているのだから、僕たち消費者も正しい認識を持ち、偏見を捨て、思いやる気持ちを持ち、福島県を盛り上げるべきではないだろうかと思う。

昨年の秋、原発事故のため、横浜に避難していた少年のいじめが明らかになった。その少年は、震災直後の小学二年生のときにいじめが始まったそうだ。「怪」を付けて呼ばれたり、暴力を振るわれたり、金銭を要求されたりしたそうだ。少年の手記の中に、こんな言葉が

あった。「今まで何回も死のうと思った。でも震災でいっぱい死んだから、つらいけど、僕は生きると決めた。」と。僕と同じ年であるこの少年は、一人で悩んで耐えて、どんなに辛かったろうと胸が締め付けられる思いがした。そして、彼が生きていてよかったと思うと同時に、彼はそのときは弱者ではあったけれど、人間として心の強い人だと思った。

このいじめが発覚した後、他の地域でも福島県から避難した子どもたちがたくさんいじめにあっていることが明らかになった。「放射能がうつるから近づくな」とか、「お前らのせいで原発が爆発したんだ」と言われたそうだ。放射能がうつるなどと、正しい知識をもった人の言う言葉ではない。本当に憤りを感じる。避難した人たちは、みんな何も悪いことはしていない。たまたま住んでいる場所に、大地震が起こり、原発事故のため、仕方なく避難せざるを得なかったのである。慣れない土地で、見知らぬ人たちの中で生活を始めることの大変さや辛さを思うと、どうしてそんな冷たい態度が取れるのか、普通の生活を送る当たり前の権利を奪うことができるのだろうか、と残念でならない。

正しい事実を知り、他人を認め理解し、思いやり、そして自分を制する心があれば、世の中にいじめや差別は起こらないはずである。自分はどんなときも常にそうありたい、と考えさせられる出来事が、最近はいくつもある。

私は、子どもが欲しいのかな? (支援学校専攻科2年)

私は子どもが欲しいと心の底から思えない。もし、子どもができたら出産はしてみたい気持ちはあるが、子どもを育てる自信がないからだ。というのも、私には聴覚障がいがある。子どもも私と同じように聞こえないからどうしよう。家族全員に聴覚障がいがあるデフファミリーという言葉があるように、聞こえない子どもが生まれてくる可能性が大いにあるからだ。私に聴覚障がいがあることで、苦労した道を歩ませてしまうことになるかもしれない。私と同じように、健聴者に理解されず、苦しんだことを経験させてしまうかもしれない。それを私は支えることはできるのだろうか、と不安になるからだ。

また、子どもが健聴者だったら、どうするのだろう。私の聴覚障がいをどのように説明したらいいのだろう。どのように理解してもらったらいいのだろう。親子間でのコミュニケーション面で悩みがたくさん出てくると思う。

どちらにしても、不安しかないのだから、子どもを産まないで自分の人生を歩んでいく生き方もある。

だが、その選択をしたら、私の両親はどう思うのだろうか。私たち聞こえない三兄弟をここまで育て上げて

くれた両親に、孫の顔を見せてあげたいという気持ちも心のどこかにある。近所のお姉さんに小さな子どもがいて、その子どもに対して両親は、いつも嬉しそうに可愛がっているからだ。そんな両親の顔を見ると、できれば子どもは私と同じ聴覚障がいがなく、ほかの障がいもなく、健常者として、私のところに無事生まれてきてほしいとも思う。両親を喜ばせたい気持ちと、私たちが育てていたときのしんどい思いをまた、させたくない思いがぶつかり合い、何とも言えない感情が心の中にある。それは結局、私のエゴなのだろうか。

私自身、私たちに向き合ってくれた母の気持ちを知らりたい。母は健聴者だが、私たちが聞こえないと分かっていても、しっかり顔を見合せて、分かるまできちんと話をしてくれた。聞こえないことがかわいそうだとも思わずに、時に厳しく、時に優しく接しながら育ててくれた。そんな母だからこそ、私が聞こえないことで、辛いことや悲しいことがあっても、すぐに母に相談したり、話したりすることができた。

だから、そのときが来れば私は母のように、よき相談相手でありたい。そのためには、お母さん、もう少し甘えてもいいかな?

「自分らしく」が認められる社会へ (成人)

中学校の昼休み、私が保健室でお弁当を食べていると、来室した生徒が「お弁当のおかずなに?」と聞いてきました。しばらくお弁当について話をし、話の流れから我が家では夫がお弁当を作っていることを伝えようと、

「先生、女なんやからちゃんと作らなあかんやん!」という言葉が返ってきました。我が家では結婚前から夫がお弁当を作ってくれていて、日常の家事も分担して行っています。例えば、食事を作るのは私の仕事、洗い物は夫の仕事。そう伝えようと、不思議そうな顔を教室へ戻っていききました。

まだ十三歳の子供から「女らしくしなさい」と言われた気分になり、いったい何歳からジェンダーの押し付けが始まっているのだろうと驚き、自分の過去を思い出してつらい気持ちがよみがえってきました。

私は「女は女らしく」という家庭で育てられました。しかし、親の思惑から外れ、男の子とばかり遊び、ゲームやプロレスなど、二十年前は男の子の趣味と言われるようなものばかりに興味を持っていた私にとって「女らしく」は呪いの言葉でした。

「女らしくしなさい」と言われれば言われるほど「自分らしさ」を否定された気分になりました。そして「女らしくない」私は「女ではない」と言われたと感じるようになり、一時は本気で「男の子になりたい」そうすればもう二度と「女らしくしなさい!」と言われなく

てすむのに。」とさえ思っていました。

教員をめざして大学に通っていたころ、一人の小学生と出会いました。その子は体は女の子でしたが、男の子のようにふるまって生活していました。そのことよりも驚いたのは同じクラスの児童たちが、その子のことをそのまま受け入れていたことでした。誰もからかったり、「なんで女らしくしないの?」などと聞いたりしません。クラスの中でその子はのびのび生活していました。その子だけでなく、みんなが元気に楽しく学校生活を送れている教室で、一緒に過ごさせてもらうちに、性別による「らしさ」ではなく、「自分らしさ」を出せる場所の大切さを、子どもたちから教えてもらいました。

教員になり十年以上が経過しました。その中で、私が子どもたちと接するときに気を付けていることがあります。それは固定観念によって作られた「〇〇らしく」を子どもたちに押し付けるのではなく、その子自身を見て、そのまま受け止めようということです。

「自分らしく」が認められる社会を作っていくためには、まずは子どもたちが「自分らしさ」を認められる体験をし、その居心地の良さを感じていくほかはないと思っています。そんな社会を作るため、今日私は子どもたちと一緒に、「自分らしく」が認められる学校を作っていこうと思います。